

第4章 財務分析の実践

本日のテーマ

① 主要な諸比率に出てくる分析指標で、理解しやすいものから確認しよう

収益性諸比率→資本利益率・完成工事高利益率・回転率・変動費比率
固定費比率等

安全性諸比率→流動比率・当座比率・固定比率・固定長期適合率・負債比率・
自己資本比率等

生産性諸比率→付加価値率、労働装備率、労働分配率、設備投資効率、資本集約度など
生産性とは？（投入と成果の比較）→（何人投入して、いくら付加価値）

建設業の付加価値→完成工事高－（材料費＋労務外注費＋外注費）

※付加価値→自社が新たに生み出した価値

（材料費は材料メーカーが産み出した価値・外注費は外注先が産み出した価値）

※労務外注費→（原価計算テキストより）

労務費のうち、工程別等の工事の完成を約する契約でその大部分が労務費であるもの（工事現場での作業従業員と同内容の業務を実施している外注）

<参考>

労働生産性＝付加価値÷従業員数×100

労働装備率＝有形固定資産÷従業員数

労働分配率＝人件費÷付加価値×100

資本生産性＝付加価値÷資本×100

建設業では設備投資効率として（付加価値÷有形固定資産×100）であらわすこともある
資本集約度＝総資本÷従業員数（一人に集約するとどれだけの資本？）

<本編>

①建設業の収益性に係る比率の特徴

・テキストでは、平成 24 年前後の総資本経常利益率は製造業よりもかなり低い、平成 28 年度では 6%程度にUPしており製造業を抜いている

・固定資産回転率は建設業の特徴からして当然高くなる

・建設業においては規模別の格差が大きい（第 5 章で理由を分析する）

②財務安全性に係る比率の特徴

（流動性分析→財務安全性、資本構造分析→財務健全性）

・負債比率が製造業の 3 倍以上

③生産性と成長性に関する比率の特徴

1 人当たり売上高は製造業の 1.5 倍（大企業）だが、ここでも規模別の格差が大きい

★固定資産が少ない、外注依存度が高い（下請け構造）、長期工事などの特徴と関連付けるとイメージしやすいかもしれない→このイメージが基準問題への対応力をつけることになる

★過去問にチャレンジのために若干の説明をしておこう

1.有形固定資産回転率

完成工事高÷有形固定資産（建設仮勘定は除く）

2.付加価値

→生産段階で新たに付け加えた価値

色々な定義があるが建設業の場合は、完成工事高－材料費－外注費

3. 生産性＝生産量÷投入量

労働生産性（建設業の生産量とは付加価値と同義と考えよう）

→付加価値÷従業員数（≒一人当たり付加価値）

4.設備投資効率

効率→使った労力に対する、得られた成果の割合

付加価値÷有形固定資産

5.資本集約度（イメージしにくい）

企業活動に、「従業員 1 人当たりの資本」をどれくらい投下しているか

→総資本÷従業員（全従業員）

<では小川と一緒に過去問題にチャレンジ>

第 22 回 第 4 問

〔第 4 問〕 次の<資料>に基づき、下記の設問に答えなさい。なお、解答に際しての端数処理については、解答用紙の指定のとおりとする。(15 点)

<資料>

1. 完成工事原価の内訳

材料費	106,000 千円
労務費	155,000 千円
(うち労務外注費)	145,000 千円)
外注費	672,000 千円
経費	152,000 千円
(うち人件費)	61,000 千円)

2. 資産の内訳(期中平均)

流動資産	450,800 千円
有形固定資産	208,000 千円
(うち建設仮勘定)	8,000 千円)
無形固定資産	3,200 千円
投資その他の資産	360,000 千円

3. 従業員数(期中平均)

技術系職員	65 人	事務系職員	35 人
-------	------	-------	------

問 1 有形固定資産回転率は 6.0 回であった。付加価値率を計算しなさい。

問 2 労働生産性を計算しなさい。

問 3 設備投資効率を計算しなさい。

問 4 資本集約度を計算しなさい。

(問 1) 付加価値率=23.08

有形固定資産回転率→完成工事高÷(208,000-8,000)=6.0
∴完成工事高=1,200,000

付加価値→1,200,000-106,000-145,000-672,000=277,000

(問 2)

277,000÷(65+35)=2,770

(問 3)

277,000÷200,000=138.5%

(問 4)

資本集約度

1,022,000÷100=10,220